

## 令和5年度第3回 独立行政法人農業者年金基金資金運用委員会 議事概要

### 1. 開催日時

令和6年2月28日（水）10：28～11：06

### 2. 開催場所

独立行政法人農業者年金基金 一般会議室

### 3. 出席委員

・徳島 勝幸 委員長 ・小粥 泰樹 委員 ・菅原 晴樹 委員 ・枇杷 高志 委員

### 4. 議事

被保険者ポートフォリオにおける政策アセットミクスの変更について

### 5. 概要

前回の資金運用委員会において、現在の政策アセットミクスについては、今後の市場動向を踏まえながら、早期に見直すことが必要とされたことから、次のとおり審議を行い、政策アセットミクスを変更することが了承された。

#### （1）事務局からの説明

- ① 物価が令和4年度から急激に上昇していることから、期待リターンが物価上昇率を踏まえた水準となるよう、政策アセットミクスを変更する必要があると考える。
- ② 目標とする期待リターンの水準については、過去の政策アセットミクスにおける実質の期待リターンの水準をベースとして、今後想定される物価上昇率を勘案することが適当であると考えます。
- ③ 政策アセットミクスの分散効果を高める観点から、相関の高い国内債券及び為替ヘッジあり外国債券の保有割合を低下させるとともに、株式において、国内株式及び外国株式に係るエクスポージャーの分散を図ることが適当であると考えます。

#### （2）審議結果

政策アセットミクスの国内債券 50%、国内株式 15%、為替ヘッジあり外国債券 15%、為替ヘッジなし外国債券 5%及び外国株式 15%への変更について、本年4月からオペレーションを実施できるよう、主務省との調整を進めるとの提案について、了承された。

#### 〔委員からの主な意見等〕

- 政策アセットミクスはできれば3年とか5年とか変えなくて済むのが理想であるが、

足元の環境を考えると、少し修正をした方が加入者の利益につながるとの判断であるとのメッセージを加入者に伝えると良いのではないか。

- 物価が上がる中なのでリターンを高め、リスクについては許容範囲であるとの説明が必要ではないか。
- 以前の加入者の意見は、あまりリスクを増やしたくないとの声が多かったと理解している。物価上昇に対応していこうとの判断は理解できるが、リスクについて、加入者への丁寧な説明が必要ではないか。
- 今後の政策アセットミクスにおいて、国内株式だけでなく、国内株式と外国株式の双方の保有割合を増やすのは、リスク管理の観点から分散を図るとともに、足元の国内株式市場の動きは実質を伴っているとの基本的認識であるものの、心配する見方にも配慮したものと理解しており、良いのではないか。
- 政策アセットミクスの変更に当たり、各資産の乖離許容幅はどのように設定するのか。

(事務局回答)

乖離許容幅については、基本的には今までと同様と思っているが、リスクとの関係も踏まえ、国内債券については±5%くらいとしてはどうかと考えている。

(以上)